

# 愛知県感染症情報

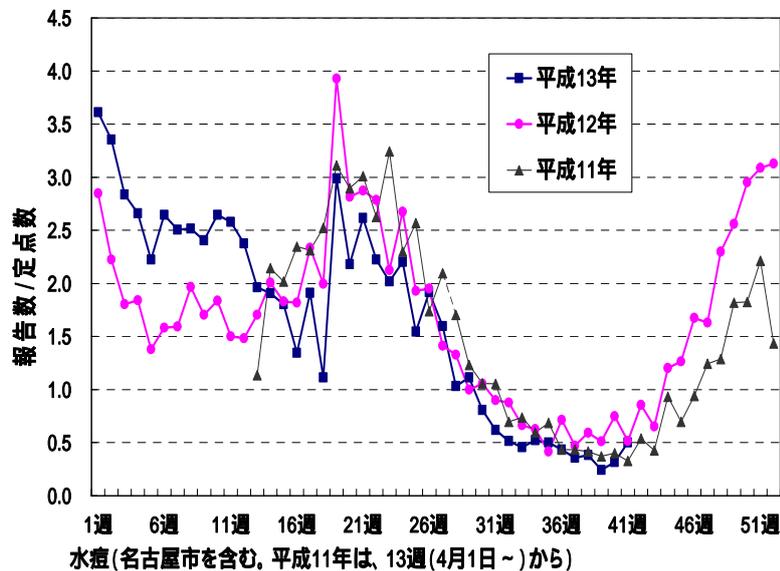
## 平成 13 年第 41 週（10 月第 2 週）

（コメント）

感染性胃腸炎と水痘の報告数が増加してきました。これから流行時期に入りますので注意してください。

（豊橋地区におけるサルモネラ患者の発生について）

9月1日から10月19日正午現在までに9歳を中心に140名の有症者が確認されています。



（定点の先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
  - ・ 3歳男児水痘 ワクチン歴あり  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
  - ・ 病原性大腸菌感染者 01（7歳女、2歳男）  
マイコプラズマ肺炎増加中  
パラインフルエンザ様症状の患者が急に多くみられました。  
（尾西市 城後小児科）
  - ・ カンピロバクター 69歳男  
（師勝町 医療法人師勝クリニック）
  - ・ マイコプラズマ肺炎 6歳男  
（新川町 三輪医院）

- 尾張東部地区

- ・ 強い腹痛を主訴とする下痢が多く見られます。  
(犬山市 武内医院)
- ・ ムンプス、水痘また増えてきました。相変わらず喘息多し。  
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 1歳男  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ感染症が成人小児共に目立ちます。(入院例もあり)  
流行性耳下腺炎、まだ小流行あり。  
気管支喘息発作が増加しました。  
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ マイコプラズマ肺炎 小3  
(南知多町 医療法人大岩医院)
- ・ 7歳女；ケルズス禿瘡\* 他医にて数ヶ月治療も悪化重症です。  
\*ケルズス禿瘡(とうそう):頭の水虫。頭部白癬が原因。学童に多くみられるが、  
乳児や老人にまれながら生ずることがある。  
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ 麻疹がまだ散発しています。百日咳(0歳児、ワクチン未接種)2例あり  
ました。  
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
- ・ 手足口病小流行しています。喘息多し。  
(小牧市 小牧市民病院)

- 西三河地区

- ・ *C. jejuni* 12歳男  
ムンプス 2人  
マイコプラズマ肺炎 12歳男、6歳男  
(豊田市 やふそ小児科)
- ・ カンピロバクター腸炎 5歳男  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 025 13歳男、0125 10歳男  
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
- ・ エルシニアによる腸炎 8ヶ月男  
(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)
- ・ マイコプラズマ肺炎 8歳女、9歳男  
(岡崎市 医療法人深田小児科)

- ・ カンピロバクター 1歳5ヶ月  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ ムンプスやや増加  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 手足口病も減少し、全体に落ち着いた1週間でした。  
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ 感染性胃腸炎は、血便、白血球増加が認められたが、培養にて細菌は検出されませんでした。  
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
  - ・ サルモネラ 09(3歳~9歳男7名女3名)、サルモネラ 04 5ヶ月女  
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)
  - ・ サルモネラ 09(6~12ヶ月女2名)  
(豊橋市 富田小児科)
  - ・ マイコプラズマ肺炎 2歳男  
(小坂井町 医療法人宝美会総合青山病院)
  - ・ 水痘2例は、祖母の帯状疱疹から感染。  
11ヵ月女児、*E.coli* 018 検出。経過は、良好。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者2名

- ・ 一宮保健所から報告の2歳男。10/9発病、10/10初診、10/12診定。菌型は0157 VT1・2(+ )。
- ・ 西尾保健所から報告の50歳男。10/9初診、10/9診定。菌型は0157 VT2(+ )。

腸管出血性大腸菌保有者1名

- ・ 西尾保健所から報告の20歳女。10/9初診、10/12診定。  
菌型は0157 VT2(+ )。

細菌性赤痢患者1名

- ・ 安城保健所から報告の25歳男。10/9発病、10/9初診、10/12診定。  
菌型はフレキシネル 2a。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

アメーバ赤痢患者1名。

第39週(9月24日～9月30日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は第34週以降定点当たり報告数が増加傾向にあり、第39週の定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比べやや多くなっている。今後、年末・年始のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。手足口病は山形県で定点当たり3.2の報告がある。伝染性紅斑は例年最も患者数が少ない時期であり、今年も患者数は漸減傾向にあるが、過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかかなり多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週より、ここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(6.7)、沖縄県(4.2)、愛媛県(3.1)などである。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数8.5、熊本県で4.9、鹿児島県で4.0と多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

平成13年10月18日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

秋晴れの日と秋霖の日が繰返されるようになり季節が足早に過ぎ去ろうとしています。

サルモネラや狂牛など、話題に満ちた毎日ですがご多忙のところ、いつも貴重な情報を有難うございます。10月前半のまとめをお送りします。

1.名古屋市内：名鉄病院宮津先生からは麻疹と水痘が再び増加、マイコプラズマ肺炎、アレルギー性紫斑病の入院が目立つ、第二日赤岩佐先生からは肺炎・気管支炎が少し多い、城北病院渡辺先生からは喘息のある小児とRSウイルス陽性者があり、マイコプラズマ陽性の肺炎がまだあり、千種区今枝先生からは手足口病とムンプスが散発、5ヵ月児の白痢あり、三菱病院岩間先生からはマイコプラズマ肺炎と感染性腸炎（大腸菌O1、O18、O153）が目立つ、中京病院柴田先生からはマイコプラズマ肺炎とムンプス髄膜炎がパラパラあり麻疹2例、大同病院水野先生からはムンプスの発生が続き乳幼児の肺炎・気管支炎が多く（マイコプラズマ肺炎は年長児に多いが1歳未満の例もあり）、サルモネラ腸炎の入院も目立ったというお手紙をいただきました。

2.尾張地区：犬山市武内先生からは気管支喘息が多く、手足口病と感染性胃腸炎、ムンプス、伝染性紅斑が散発、マイコプラズマ肺炎あり、江南市昭和病院西村先生からはムンプス、マイコプラズマ肺炎が目立つ、常滑市民病院上田先生から細菌性胃腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ）、ウイルス性胃腸炎、ヘルペス口内炎、マイコプラズマ感染症が目立ち、仮性クループ、帯状疱疹ありとのお手紙でした。

3.三河地区：トヨタ病院木戸先生からはマイコプラズマ肺炎が少し多くなり、喘息発作の子が増えている、加茂病院梶田先生からはムンプスがまだ多くムンプス髄膜炎1例ありマイコプラズマ肺炎が目立ち伝染性紅斑が散発中、刈谷市田和先生からは溶連菌感染症が散発中、碧南市永井先生からは手足口病とムンプスが散発中、豊橋市宮澤先生からはムンプスと手足口病の散発が続き集団ではないサルモネラ腸炎が異常に多発しているとお手紙をいただきました。有難うございました。

2001年8月24日号（76巻34号）

髄膜炎菌髄膜炎。アンゴラ。5月下旬から77例（死亡17例）。8月13日、2歳以上の小児を対象としてワクチン集団接種開始。国境なき医師団が予防接種とクロマイによる発病者の治療を開始している。

コレラ。チャド。8月21日時点で2,458例（死亡88例）が報告され、WHOと同国厚生省、国境なき医師団が実態調査と住民教育を開始。

ポリオ。東南アジア。2000年1月～2001年6月における東南アジア地区のポリオの状況。野生株によるポリオの発生は同地区10カ国のうち4カ国に減少した。本報は2001年6月におけるWHO報告のまとめである。定期接種率：インドの1歳におけるポリオ生ワクチン3回定期接種終了率はWHOの公的報告では接種率95%であるが、実態調査では59%以下である（注：インドの農村部の調査を実際にやってみると公的報告と実態のずれを痛感します）。東南アジア各国で定期接種参加率には疑問があります。

全国一斉接種と地域単位絨毯爆撃接種：定期接種に加えて年1回～2回の全国一斉接種と、ポリオ患者発生地区における戸別訪問で地域住居小児全員を対象としたワクチン接種がインド、バングラデシュ、ミャンマなどで進められている。ポリオを含む急性弛緩性麻痺疾患（AFP）のサーベイランス網と各患者からのウイルス検査検体収集とウイルス検査網の確立：2000年～2001年における各国のAFP発生数とポリオ野生株が分離された例数の一覧表あり。目立つのはインド、バングラデシュ、モルディブ、インドネシア、ミャンマにおける野生株の発生であるが、ウイルス検査の検査網の整備も注目される（現在野生株ポリオが多発しているインド北部とネパールの地図あり）。

インフルエンザ：アルゼンチン。8月。A型とB型。

8月17日～23日届出：コレラ：ベニン、オマーン、オーストラリア（輸入例）。

HIV母子感染（第二報）：タイ。前号報告に続くWHOのコメント。タイにおける調査から、妊娠後期から出生時期における抗HIV剤投与でHIV母子感染率は30%から10%に減少できることが明らかになったが妊婦の検査参加状況、薬剤の内服状況などの医療機関別の丁寧な調査が必要であり、一部サハラ南縁地区でも開始されているが同様の背景調査が必須となる。

2001年8月31日号（76巻35号）

黄熱：リベリア。同国厚生省は抗体検査確認例1例を含む3例の発生を報告。

先天性風疹症候群：コスタリカ。コスタリカでは風疹ワクチンが1972年から定期接種となっているが接種率の低さ（約40%）から定期的に発生があり、96年～97年に1～4歳と7～14歳児の全員を対象として、麻疹根絶を目標に麻疹・風疹ワクチン（MR）の定期接種を開始した。しかし数年に一度の全国的流行が続いていて罹患者の年齢分布が20歳～30歳代であることが先天性風疹症候群発生と関連して重要な点である。

8月24日～30日届出：コレラ：象牙海岸、チャド。